



一期一会

会員 栗田 雄太 (69期)

1 はじめに

私が所属している事務所では、弁護士は一年間程茶道を習うことができます。これを聞くと驚かれる方も多いのではないかと思います。非常に自己研鑽になっていると感じているため、ここでは簡単に茶道について書かせて頂きます。

2 裏千家

茶道には多くの流派があり、それぞれで作法が異なります。私が習っている流派は、裏千家という流派であり、三千家の一つです。

「三千家」とは、千利休から家督を継いだ本家である表千家と、分家である裏千家及び武者小路千家の三つの流派の総称です。

3 袱紗捌き

私は茶道を始めて3カ月ほどになりますが、大きく3つのことを習いました。

はじめに習ったことは、袱紗（ふくさ）捌きです。

袱紗とは、約29cm四方の絹でできた2枚重ねの布のことをいい、茶道具を拭くためなどに使います。

これをたたむことを袱紗捌きといいます。独特なたたみ方をするため、きれいにたたむのにも練習が必要です。また、茶道は、所作にも気を配らなければならないため、袱紗捌きのときも姿勢や手の位置などに気を配る必要があります。さらに、袱紗捌きをしている間も、亭主として、お客への気配りが必要です。

したがって、お客への気配りができるようになるには、意識をしないできれいな所作で袱紗捌きができるように練習をしなくてはなりません。

4 お茶のたて方

次に習ったことは、お茶のたて方です。

お茶のたて方は、流派によって異なります。表千家や武者小路千家ではあまり泡は立てないのに対して、裏千家ではよく泡立てます。

泡の立て方は、まずは手首を使って、茶筌を大きく

振って泡立てます。それによって、大きな泡が出来たら、茶筌を回すように動かしてその泡を細かくしていきます。

お茶は、たて方によって味も変わり、練習するほど味がよくなっていきます。お客をもてなすことのできるお茶を出すには、やはり練習が必要です。

5 お茶の頂き方

次に習ったことは、お茶の頂き方です。

お茶の頂き方は、出された茶碗を時計回りに2度回して180度向きを変えてから、お茶を頂きます。お茶を頂いたら、口をつけた部分を軽く指で拭き、再度同じように180度向きを変えます。その後、茶碗を自分の正面に置き、茶碗の形や色などを拝見します。

このように茶碗の向きを変える理由は、茶道の「謙遜」の精神にあります。すなわち、亭主は茶碗の最も美しいとされる正面をお客の方に向けてお茶を出すのに対して、お客は茶碗の正面に口をつけることを避け、亭主の方に茶碗の正面が向くようにしてお茶を頂きます。

6 まとめ

茶道と聞くと、「一期一会」を連想される方が多いのではないのでしょうか。

私は、今までにも「一期一会」を意識することはあったのですが、実際に茶道を習うことで、「一期一会」をより強く意識するようになりました。それは、亭主としてお客をもてなすことやお客として亭主にもてなされることを体験したことで、「一期一会」を体感したからではないかと思っています。

現在は、点前（てまえ）を習い始めたところです。ひとつひとつ丁寧に習いながら、「一期一会」の意識を習慣づけたいと思っています。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

